



A Global Supplier for Global Society

# 2020年3月期第2四半期 決算説明会

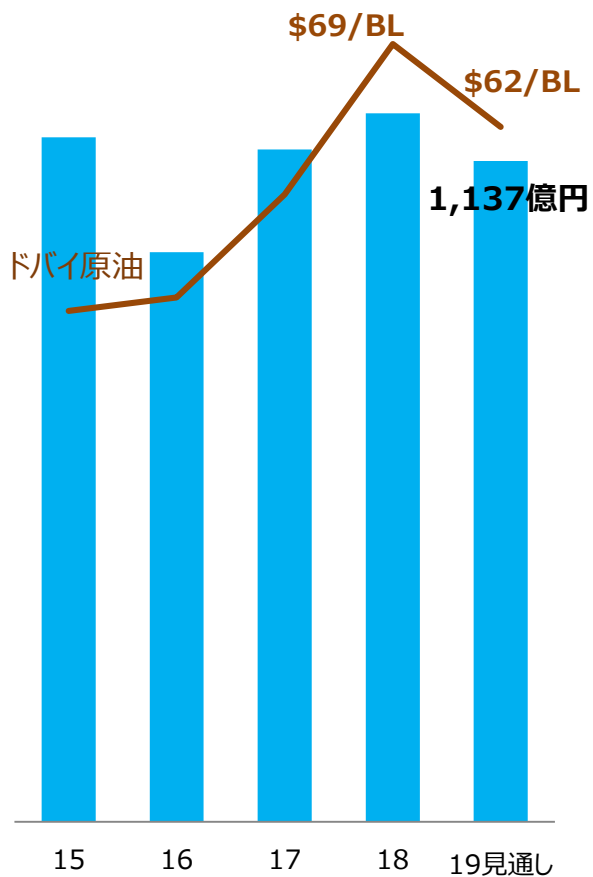
---

*Deliver with*  
**WOW!**

1. **2020年3月期第2四半期決算概要（2019年度上期）**
2. 2020年3月期決算見通し（2019年度見通し）
3. 2020年3月期第2四半期決算補足（2019年度上期補足）
4. 開発製品のご紹介

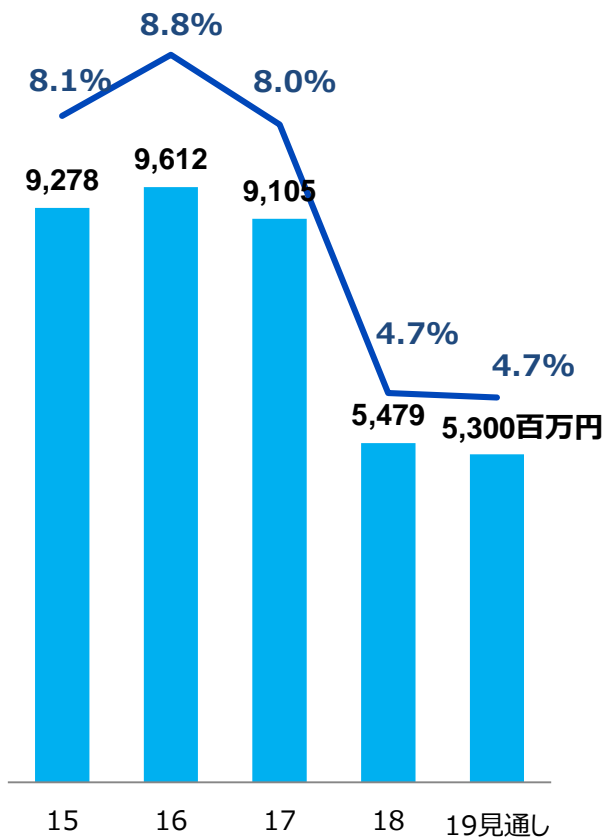
## Growth

売上高



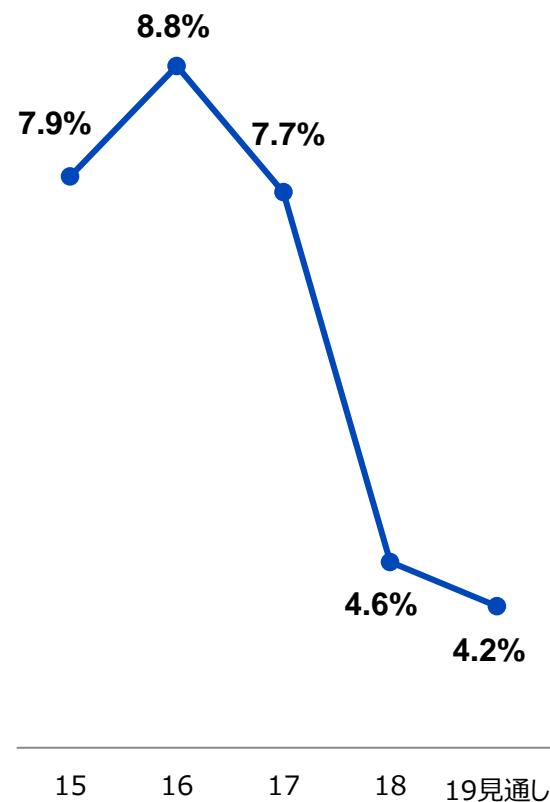
## Margin

営業利益・営業利益率



## Return

総資産経常利益率



項目 (単位：百万円)	2018年度上期 実績	2019年度上期 公表 (2019/7/30)	2019年度上期 実績	前年 同期比	公表比
売上高	57,450	59,000	<b>56,308</b>	△2.0%	△4.6%
営業利益	2,801	3,500	<b>2,474</b>	△11.7%	△29.3%
経常利益	2,999	3,600	<b>2,474</b>	△17.5%	△31.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,350	2,760	<b>1,917</b>	△18.4%	△30.5%

- 為替：19年度上期110.0円/US\$ 124.1円/€ (18年度上期 108.5円/US\$ 130.7円/€)
- 原油価格(ドバイ)：19年度上期US\$64.2/バーレル (18年度上期 US\$73.0/バーレル)
- 経済状況：米国／良好な雇用・個人消費などにより堅調、製造業は生産・設備投資は弱い動き、欧州／雇用環境の改善は継続、輸出の弱含みなどにより減速傾向、アジア／米中貿易摩擦の影響から経済成長は鈍化、日本／雇用環境改善による個人消費の持ち直しで緩やかに回復、外需減速で停滞感

売上高：一部分野の需要低迷などにより前年同期比2.0%減

営業利益：需要低迷の影響や新規需要へ向けた生産体制構築に伴う固定費増加等により前年同期比11.7%減

項目 (単位：百万円)	2018年度上期 実績	2019年度上期 実績	前年同期比
売上高	20,054	<b>19,448</b>	△3.0%
営業利益	1,150	<b>1,022</b>	△11.2%

一部分野で販売減により売上減、高付加価値製品対応で固定費増加し利益減

### 食品包材・容器



「スチレンペーパー」  
「ミラボード」

- 食品トレー向け分野や販売広告宣伝用ディスプレイ材の販売減少

### 産業用包装材



「ミラマット」  
「キャプロン」  
「Pボード」

- 高付加価値製品の販売は堅調に推移
- 汎用製品の販売は減少で、売上は減少

### 住宅用断熱材・土木資材



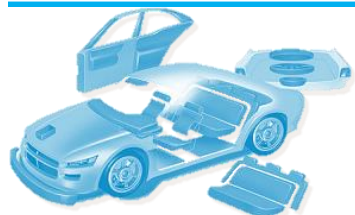
「ミラフォーム」

- 建築分野向けの高断熱製品及び割付断裁品の販売が好調
- 土木分野向けの販売は低調
- 売上は前年同期並み

項目 (単位：百万円)	2018年度上期 実績	2019年度上期 実績	前年同期比
売上高	34,286	<b>33,987</b>	△0.9%
営業利益	2,028	<b>1,945</b>	△4.1%

一部分野の需要減少で売上減、新規需要対応により固定費増加等で利益減

### 自動車部品・家電緩衝材・グラウンド基礎材



「ピーブロック」  
英名「ARPRO」  
「エレンポールNEO」



- 自動車の新規部品採用拡大・種々の用途拡大し販売増加
- 日本：自動車部品向け販売が順調に推移
- 北米：自動車部品、平板緩衝材、通い函等の販売低調
- 南米：新たな農業分野向けなどが順調に推移し、販売増加
- 欧州：経済減速の影響あり、販売は前年同期並み
- アジア：米中貿易摩擦の影響あるも販売増加

### 発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



「スチロダイア」  
「ヒートポールGR」  
「クリアポール」  
「スーパーブロー」

- 「スチロダイア」水産・農業分野での需要減少などにより売上減少
- 「スーパーブロー」需要増加により売上増加

項目 (単位：百万円)	2018年度上期 実績	2019年度上期 実績	前年同期比
売上高	3,109	2,872	△7.6%
営業利益	64	46	△26.9%

## 国内の販売減少により減収減益

### 国内一般包材

- 自動車部品関連等の販売減で売上減少



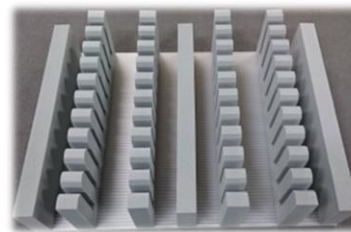
自動車部品トレイ



情報家電緩衝材

### 中国一般包材

- 各種部品関連の需要獲得で売上増加



自動車部品搬送材



光学部品緩衝材

1. 2020年3月期第2四半期決算概要（2019年度上期）
- 2. 2020年3月期決算見通し（2019年度見通し）**
3. 2020年3月期第2四半期決算補足（2019年度上期補足）
4. 開発製品のご紹介



項目 (単位：百万円)	2018年度	2019年度			前年比
	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し (公表値)	
売上高	116,133	56,308	57,392	<b>113,700</b>	△2.1%
営業利益	5,479	2,474	2,826	<b>5,300</b>	△3.3%
経常利益	5,835	2,474	2,926	<b>5,400</b>	△7.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,309	1,917	2,283	<b>4,200</b>	△2.5%

- 為替レート：米ドル 108.9円/US\$（上期110.0円/US\$ 下期107.9円/US\$）  
ユーロ 121.3円/€（上期124.1円/€ 下期118.5円/€）
- 原油価格(ドバイ)：US\$62/バーレル（上期US\$64/バーレル 下期US\$60/バーレル）
- 配当：1株当たりの配当金（予想）年間 50円（中間25円、期末25円（予想））

項目 (単位：百万円)	事業の種類	2019年度 对外公表 (2019/7/30)	2019年度 通期見通し (2019/10/29)	差異
売上高	押出事業	42,560	<b>40,330</b>	△2,230
	ビーズ事業	70,590	<b>67,510</b>	△3,080
	その他	6,250	<b>5,860</b>	△390
	合計	119,400	<b>113,700</b>	△5,700
営業利益	押出事業	2,783	<b>2,431</b>	△352
	ビーズ事業	5,270	<b>3,852</b>	△1,418
	その他	199	<b>110</b>	△89
	全社及び控除	△1,052	△ <b>1,093</b>	△41
	合計	7,200	<b>5,300</b>	△1,900

項目 (単位：百万円)	2018年度	2019年度			前年比
	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し	
売上高	41,388	19,448	20,882	40,330	△2.6%
営業利益	2,468	1,022	1,409	2,431	△1.5%

## 高付加価値製品の販売に注力、製品の差異化を推進

## 食品包材・容器



「耐熱PSP」 「ミラボード」

- 耐熱食品容器や機能性容器の拡販により、需要減に対抗

## 産業用包装材

「ミラマット」  
「キャプロン」  
「Pボード」

- 液晶TV基板輸送緩衝材の拡販
- 海外市場での販売強化を継続
- 差異化製品による新市場開拓

## 住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム」 「Jウォールブロック」

- 高断熱化ニーズの高まりに対応
- Jウォールブロック拡販
- 高断熱化技術の研鑽

項目 (単位：百万円)	2018年度	2019年度		前年比	
	通期実績	上期実績	下期見通し		通期見通し
売上高	68,449	33,987	33,523	67,510	△1.4%
営業利益	3,782	1,945	1,907	3,852	+1.9%

## EPP 新規用途の採用拡大、EPS 機能性製品の拡販

自動車部品・家電緩衝材・スポーツシューズ

発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



## 「ピーブロック」



## 「エレンポールNEO」

- 自動車の新規部品の採用拡大などにより、販売数量は前期を上回る見込み
- 北米は、自動車生産台数減、GMストライキの影響で、前期を下回る見込み



## 「スチロディア」



## 「クリアポール」 「ヒートポールGR」



- 需要減少も機能性の高い製品比率アップで収益確保
- スプレッドの維持

## ● 成長戦略の推進

成長戦略では「事業領域の拡大」を含む4つの成長エンジンに経営資源を集中するなど、選択と集中による経営の効率化を推進すると共に、攻めと守りのバランスによる安定した持続的な成長を目指します。

## 4つの成長エンジン



## ● 自動車部品

2017年度数量比

**27%増**軽量化を追い風  
シートコア材需要増**5%増**

## ● 建築住宅断熱材

2017年度数量比

**18%増**2020年省エネ基準義務化  
高断熱材ミラフォーム**8%増**

## ● FPD関連保護材

2017年度数量比

**15%増**TVの大画面化  
LCDパネル  
有機ELパネル**13%増**

## ● 新たな事業領域

新規事業 (2020年度計画)

**30億円**有望テーマ絞り込み  
M & A推進体制整備

(2019年度見込み)

**スチロセメン開発**

1. 2020年3月期第2四半期決算概要（2019年度上期）
2. 2020年3月期決算見通し（2019年度見通し）
- 3. 2020年3月期第2四半期決算補足（2019年度上期補足）**
4. 開発製品のご紹介

(%は表示は対前期増減率)

年度 (単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
2019年度上期	56,308 (△2.0%)	2,474 (△11.7%)	2,474 (△17.5%)	1,917 (△18.4%)
2018年度上期	57,450 (+1.1%)	2,801 (△43.7%)	2,999 (△39.5%)	2,350 (△34.6%)

包括利益 : 2019年度上期 548百万円 2018年度上期 195百万円

年度	1株当たり 四半期純利益	売上高 営業利益率
2019年度上期	64円32銭	4.4%
2018年度上期	78円86銭	4.9%

【主要な日本円への換算レート(1~6月)】

通貨	US\$	€	RMB
2019年度 上期	110.0	124.1	16.2
2018年度 上期	108.5	130.7	17.0
前期比	101.3%	95.0%	95.3%

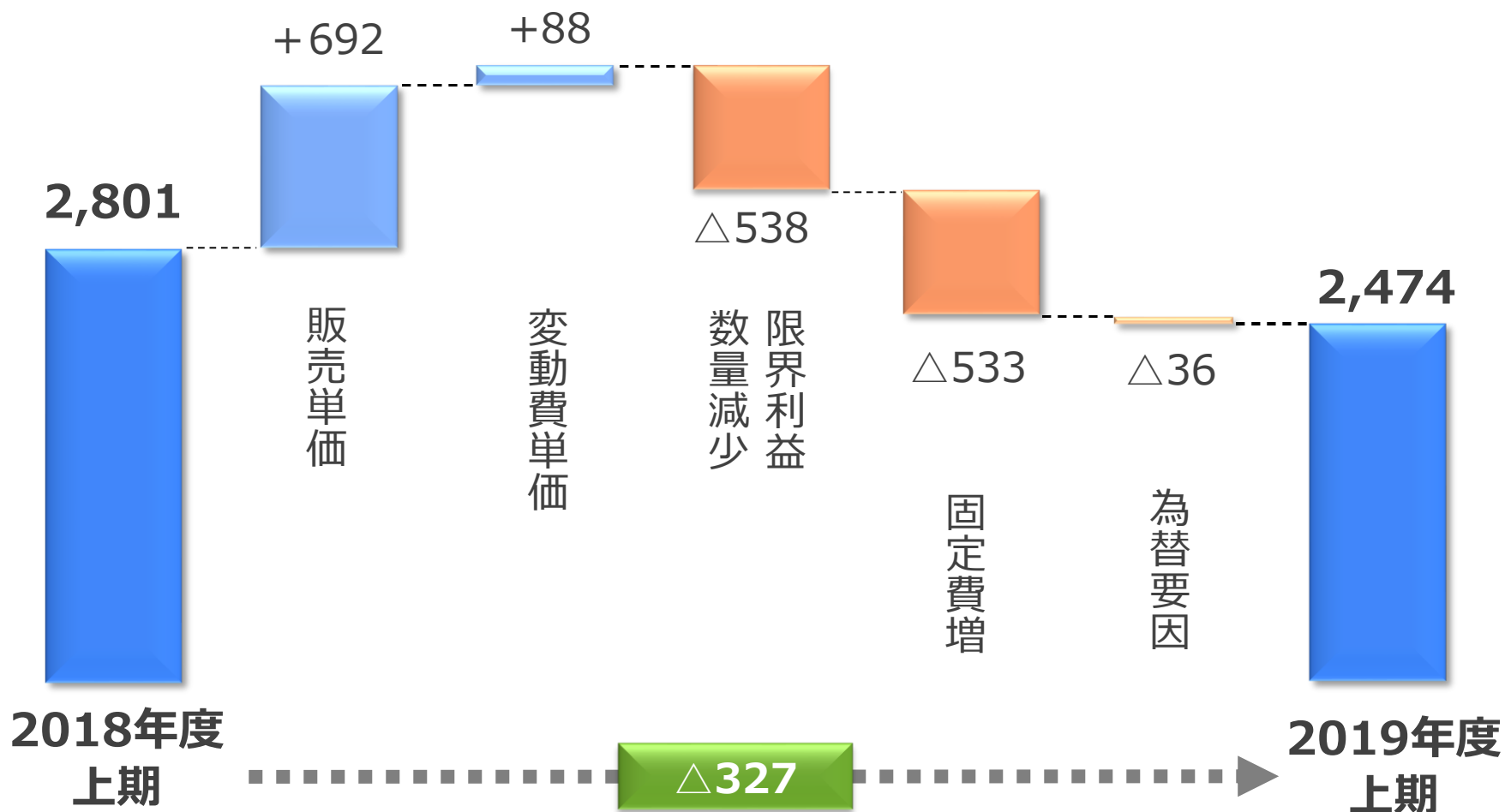
# 営業利益の増減要因

2019年度上期補足

JSP Corporation

A Global Supplier for Global Society

(単位：百万円)



利益差異は、2018年度実績の為替レートを用いて計算



# 17 営業外損益・特別損益

2019年度上期補足

JSP Corporation

A Global Supplier for Global Society

## 営業外損益

科目 (単位：百万円)	2018年度 上期	2019年度 上期
受取利息	104	<b>114</b>
その他	228	<b>128</b>
営業外収益合計	333	<b>242</b>
支払利息	75	<b>99</b>
為替差損	7	<b>86</b>
持分法による投資損失	7	<b>0</b>
その他	45	<b>56</b>
営業外費用合計	135	<b>242</b>

## 特別損益

科目 (単位：百万円)	2018年度 上期	2019年度 上期
固定資産売却益	12	<b>10</b>
特別利益合計	12	<b>10</b>
固定資産売却損	0	<b>3</b>
固定資産除却損	34	<b>16</b>
特別損失合計	35	<b>19</b>

年度 (単位：百万円)	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
2019年度上期末	127,738	83,944	62.9%	2,694円20銭
2018年度末	129,229	84,141	62.1%	2,691円76銭

(参考) 自己資本 2019年度上期 80,311百万円  
2018年度末 80,239百万円

## 【主要な日本円への換算レート】

通貨	US\$	€	RMB
2019年6月末	107.8	122.5	15.7
2018年12月末	111.0	126.9	16.1
前期比	97.1%	96.5%	97.1%

科目 (単位：百万円)		2018年度末	2019年度 上期末	増減額
資産の部	流動資産	66,830	<b>61,190</b>	△5,639
	固定資産	62,399	<b>66,547</b>	4,147
資産合計		129,229	<b>127,738</b>	△1,491
負債の部	流動負債	34,344	<b>32,091</b>	△2,253
	固定負債	10,744	<b>11,702</b>	958
	負債合計	45,088	<b>43,793</b>	△1,294
純資産の部	株主資本	81,553	<b>82,725</b>	1,171
	その他包括利益累計額	△1,313	<b>△2,413</b>	△1,099
	非支配株主持分	3,901	<b>3,632</b>	△269
	純資産合計	84,141	<b>83,944</b>	△197
負債純資産合計		129,229	<b>127,738</b>	△1,491

科目 (単位：百万円)		2018年度末	2019年度 上期末	増減額
株主資本	資本金	10,128	<b>10,128</b>	—
	資本剰余金	13,441	<b>13,441</b>	—
	利益剰余金	59,370	<b>60,542</b>	1,172
	自己株式	△1,386	<b>△1,387</b>	△221
	合計	81,553	<b>82,725</b>	1,171
その他の包括 利益累計額	その他有価証券評価差額金	233	<b>331</b>	98
	為替換算調整勘定	△2,505	<b>△3,701</b>	△1,195
	退職給付に係る調整累計額	958	<b>956</b>	△2
	合計	△1,313	<b>△2,413</b>	△1,099
非支配株主持分		3,901	<b>3,632</b>	△269
純資産合計		84,141	<b>83,944</b>	△197

# キャッシュフロー 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2019年度上期補足

JSP Corporation  
A Global Supplier for Global Society

## キャッシュフロー

年度 (単位：百万円)	営業活動による キャッシュフロー	投資活動による キャッシュフロー	財務活動による キャッシュフロー	現金及び現金 同等物の残高
2019年度上期	4,520	△6,599	287	7,065
2018年度上期	3,286	△5,297	943	9,358

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費

年度 (単位：百万円)	設備投資額	減価償却費	研究開発費
2019年度上期	6,482	3,136	1,153
2018年度上期	5,717	2,715	1,052

(注) 設備投資額はキャッシュベースであります。

1. 2020年3月期第2四半期決算概要（2019年度上期）
2. 2020年3月期決算見通し（2019年度見通し）
3. 2020年3月期第2四半期決算補足（2019年度上期補足）
- 4. 開発製品のご紹介**

## 建築構造物 向け 軽量・不燃ボード「スチロセメン」の開発



## 製品の特長

- 不燃性・遮熱性・断熱性を併せ持ち、軽量化を実現
- 建物自身の軽量化によって期待される耐震性の向上と構造物構築の省力化
- 軽量化により工期短縮、労力低減、コストダウンを可能に
- 断熱性 の付与による建物の省エネルギー化にも貢献

- ビーズ法発泡ポリスチレンと無機材料との融合
- 木造多層建築などの構造物に使用可能
- 本開発品の早期製品化を目指します

12月11日～13日開催の「第4回 [高性能] 建材・住設EXPO」に出展します。  
(於：東京ビッグサイト青海展示棟 A-28ブース)

(ご注意)

本資料の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

株式会社 J S P

お問合せ Tel 03-6212-6306 広報 IR室